地球温暖化防止の取り組み

基本的な考え方

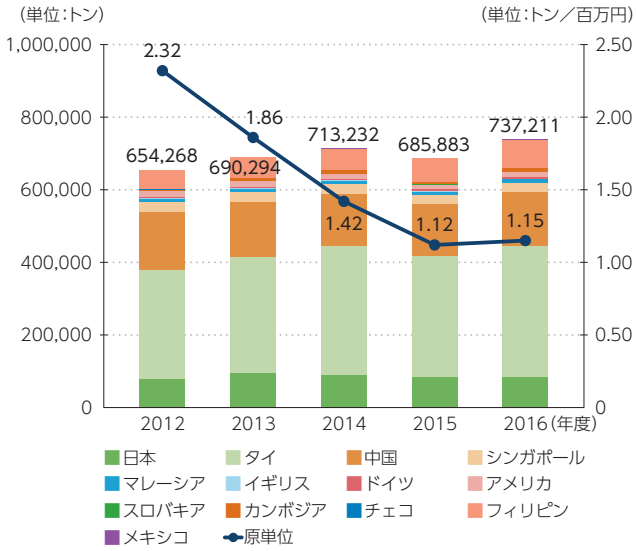
ミネベアミツミグループは、世界規模での課題となっている地球温暖化問題と、その影響によるエネルギー価格の上昇や異常気象の発生などが、事業活動の継続にも大きな影響を与えると考えています。

当社グループでは、地球温暖化防止に取り組むため、各事業所で積極的に省エネルギー対策を進めています。

2016年度の取り組み結果

2016年度のミネベアミツミグループ全体のCO_2排出量は737,211トンで、2015年度と比較して7%増加しました。一方、生産高原単位によりCO_2排出量をとらえた場合は、1.15トン/百万円で、2015年度より3%増加しました。経営統合によりCO_2排出量が増加し、しかし一方で為替の影響を受け生産量の増加に応じた生産金額の増加が得られなかった結果です。

●CO_2排出量推移(総量&原単位)



事業所における取り組み

近隣の廃棄物処理業者と契約(ミツミ電機・秋田事業所)

ミツミ電機・秋田事業所から排出されるプラスチックと紙類が混ざった廃棄物※については、これまで秋田県内にその引き取り業者がなかったことから、隣県の山形県にある業者に委託し、処分をしてきました。しかしながら、秋田事業所と廃棄物処理業者との距離は200km以上も離れていることから、廃棄物回収に際し使用する燃料消費およびCO_2排出量について大きな課題になっていました。

そのため、秋田県を通じ、県内の廃棄物処理業者数社と交渉を続けたところ、そのうちの一社と交渉がまとまったことから、処分場の視察を行っています。

視察の結果、廃棄物処理、管理などについて特に問題ないことから、正式に廃棄物処理委託契約を締結(2017年3月13日)、これまでの山形県にある廃棄物処理業者からの変更により、CO_2排出量33%、委託費用40%程度の削減・改善となっています。

※すべてRDF(固形燃料)にリサイクルしています。

廃棄物処理場(秋田県)の視察

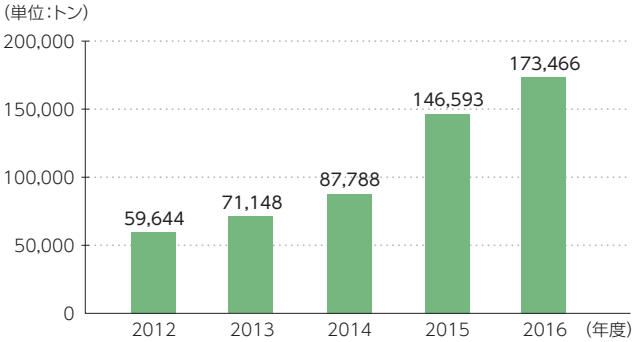
物流部門の取り組み

物流のCO_2排出量

ミネベアミツミグループは、自社の直接のCO_2排出であるスコープ1(ガス、石油)、スコープ2(電気、蒸気、熱)のCO_2排出量に加え、スコープ3(その他)となる物流(製品輸送)のCO_2排出量の把握に取り組んでいます。

2016年度の当社グループの製品輸送によるCO_2排出量は173,466トンで、2015年度と比較して18%増加しました。

●物流のCO_2排出量



今後の課題・目標

ミネベアミツミグループでは、今後も引き続き地球温暖化防止に向けて取り組みを進めていきます。

2020年、2030年といった将来の長期的な展望としては、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)や各国の政策などを注視し、対策を進めていきます。